

二〇二二年度

入学試験問題

(二月五日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙七ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校野球や運動会の行進を見ていると、日本人はひざを曲げて、地面を踏みしめて行進をしていく。一方、外国の軍隊の行進を見ていると、ひざを曲げずに伸ばしたまま、足を高く上げて歩いていく。

① この違いは、どこから来るのだろうか。

西洋人が背筋を伸ばし、足を伸ばして颯爽と歩いて行くのに比べると、日本人の歩き方は、ひざを曲げて腰を落とし、背中を丸くした姿勢で歩いていく。どこか、格好悪く見えてしまうかも知れないが、このひざを曲げて、足を垂直に下ろす歩き方は、田んぼの中を歩くときに都合の良い足の運び方である。一方、足を伸ばす西洋の行進は、足を突っ張る乗馬に由来するとも言われている。

また、柔道や相撲でも、日本人は重心を低くすることを重んじるが、これこそが、田んぼの中で転ばずに安定して立つのに必要である。

さらに田植えは、日本人のリズム感にも影響を与えていると言われている。

音楽を聞くときに、手を叩くが、日本人は表の拍を叩くことに抵抗はないが、裏拍でリズムを取ったり、アップビートの曲に乗って拍手することはあまり得意ではない。また、四拍子のリズムは得意だが、ワルツのような三拍子のリズムに乗ることは得意ではないと言われる。

日本人の掛け声を見てみよう。「エッサ・ホイサ」「ワッショイ・

ワッショイ」「エンヤーカーラ・ドッコイショ」というように、^② 表拍が強くなる。これは鋤で耕したり、田植えで苗を植えるときのリズムなのである。昔は、農作業などの労働をしながら、人々は歌を歌った。そうして生まれた民謡や盆踊りなど、日本人になじみのある歌は、すべて二拍子や四拍子の表拍のリズムなのである。

一方、馬に乗る人々は違ったリズムを持つ。馬の駆ける音を思い浮かべると、「パカラツ、パカラツ」と裏拍が強くなる。また、「パカパカパカ」とゆっくり歩くときには、三拍子のリズムが聞こえるのである。

さらに、日本人の得意とするリズムは、「タン・タン・タン・ウン」と一拍目が強く、四拍目が休符だと、心地よい。田植えは、全員で（あ）を合わせる必要がある。そのため、日本の田植え唄や労働歌は、休符を取って、リズムを合わせるようになっていく。

日本人のリズム感にまで、田植えは影響していると言われているのである。

個性を重視する欧米では、子どもたちはこう言われて育つ。「あなたの他の人と違うところはどこなの？」

これに対して、日本の子どもたちはこう言われる。「どうして他の人と同じようにできないの？」

日本では、他の人と同じであることが必要以上に求められるのである。

あるいは、新渡戸稲造の『武士道』の中で、アメリカ人の新渡戸稲造の妻が驚いたエピソードが出てくる。

暑い日、日本人の女性二人が道ばたで出会う。一人は日傘をさしている。もう一人は日傘を持っていない。すると、日傘をさしていた女性は炎天の下で、日傘を閉じたのである。

(い)、という日本人にはごく当たり前の感覚だが、アメリカ人の新渡戸稲造の妻には、それが不思議だったという。

傘が大きければ、一人で日傘の下に入れば(う)的である。たとえ、一人しか入れなかつたとしても二人で暑い思いをするよりは、日傘をさしている人だけでも日蔭に入った方が効率的だ。しかし、二人で暑さを分かちあう、それが日本人なのである。

自分の意見押し殺しても集団に同調しようとする。しかし一方で協調性を重んじ、集団で力を合わせて行動することに長けている。こうした日本人の気質は、水田稲作によって育まれてきたと指摘されている。

イネを作るときには、集団作業が不可欠である。

すべての田んぼは水路でつながっているから、自分の田んぼだけ勝手に水を引くことはできない。水路を引き、水路を管理することも共同で行わなければならないのだ。そして、自分の都合のいいように勝手なことをすることは、自分の田んぼだけに水を引く意味の

「(え)」と言われて批判されてきた。

さらにイネの栽培も手がかかるので一人ではできない。特に田植には多大な労働力を必要とする。みんなで並んで揃って田植をする必要がある。そのため、村中総出で協力しあつて作業をしてきた。力を合わせなければ行ふことができない。こうした稲作の特徴が

協調性や集団行動を重んじる日本人の国民性の基にあると考えられているのである。

日本人特有の気質の大きな要因は「稲作」にあると指摘されている。しかし、他人を思いやり、協力し合う日本人の協調性を作り上げてきたのは、稲作ばかりではないだろう。

米は日本人にとって重要な食糧ではあつたが、日本を見渡せば水がなく田んぼを拓くことのできない地域もたくさんあつたのである。

私は日本人の気質を醸成してきたものとして、稲作と共に、度重なる災害があつたのだと思う。

日本は世界でも稀に見る天災の多い国である。日本人は長い歴史の中で幾たびもの自然災害に遭遇し、それを乗り越えてきた。

科学技術が発達した二一世紀の現在であっても、私たちは災害を避けることはできない。

毎年のように日本のどこかで水害があり、毎年のように日本のどこかで地震の被害がある。防災技術の進んだ現在でもこれだけの被害があるのだから、防災設備や予測技術がなかつた昔の日本であれば③なおさらだろう。

長い歴史の中で、日本人にとって災害を乗り越えるのに必要なことは何だったのだろうか。それこそが、力を合わせ、助け合うという協調性だったのでないだろうか。

東日本大震災のときに、日本人はパニックを起こすことなく、秩序を保ちながら長い行列を作つた。そして、被災者どうしが思いや

り、助け合いながら、困難を乗り越えたのである。その冷静沈着で品格ある日本人の態度と行動は、世界から賞賛された。

災害のときに、もつとも大切なことは助け合うことである。人は一人では生きていけない。ましてや災害の非常時にはなおさらである。

(お) 的には、自分さえ良ければと (か) 的に振る舞うことが有利かも知れない。しかし、大きな災害を乗り越えるためには、助け合うことが欠かせない。

くりかえされる自然災害の中で助け合うことのできる人は助かり、助け合うことのできる村は永続していったのだろう。そして、世界が賞賛するような、協力し合って災害を乗り越える日本人が作られたのである。

もちろん、水田を復興し、イネを作るためにも力を合わせなければならぬ。

日本の人たちは、水害で田んぼが沈んでも、冷害でイネが枯れても、地震で田んぼがひび割れても、けっしてイネを作ることを諦めなかった。どんなに打ちのめされても、どんなにつらい思いをしても、変わることなく次の年には種子をまき、イネの苗を植えたのである。励まし合い、助け合いながら、日本人は災害を乗り越えイネを作り続けてきた。

おそらくは度重なる災害が、日本人の協調性をさらに磨き上げた。そして、その協調性によって、日本人は力を合わせて稲作を行ってきたのではないだろうかと思えるのである。

外に向かわず、内向きな国民性。個人の意見を言わず、個人では判断しない同質集団。このような日本人の気質は、手を掛ければ生産性が高まる日本の田んぼや、力を合わせて行う日本の稲作によって培われてきた。

ただ一方で、こうした日本人の特徴は、外交的で、個性を尊重する欧米からは理解されずに、ときに批判を浴びてきた。そして、日本人は批判されるたびに、④ 欧米流のものを考え方を取り入れようと努力してきた。もちろん、集団を優先し、個人を犠牲にしがちな日本人の気質には、欠点もある。

しかし、悪いところばかりではない。

大災害にあったときに、パニックや暴動を起こさずに、泣きわめくこともなく、ときには笑顔でインタビューを受ける姿を見て、世界の人々は不思議がった。しかし、日本人であれば、この行動はよくわかる。

もちろん、悲しくないはずはない。大声をあげて泣きたいに決まっている。しかし、それでは相手が悲しい気持ちになってしまう。相手に悲しい思いをさせないために、じっと耐えて、笑顔を見せているのだ。

相手の心に同調して、悲しい気持ちを共有できる日本人。そして、相手の気持ちを慮って笑顔を見せる日本人気質がそこにはあるのだ。

グローバル化の時代である。自分の国の欠点は反省し、他の国の良いところは取り入れることはもちろん大切である。しかし、外国

をうらやむだけでもいけないだろう。

稲作は大陸から海を越えてやってきた。それ以来、日本では新しいもの、優れたものはすべて海を越えてやってきた。そのため、日本では今でも外国のものをありがたがり、外国の考え方や習慣を取り入れようとする傾向にある。

しかし、日本には日本の良さもある。

相手のことを思いやる気持ち。相手に寄り添う心。悠久の稲作の歴史の中で日本人が育んできた大切なものは失わずに、むしろ海を越えて世界に伝えていきたい、私はそう思う。

(稲垣栄洋『イネという不思議な植物』より)

問一 — 線部①「この違いは、どこから来るのだろうか」とありま

すが、筆者は「どこから来る」と考えていますか。日本人と西洋人について、それぞれ答えなさい。ただし、日本人については、本文中の言葉を用いて十五字以内でまとめなさい。西洋人については本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問二 — 線部②「表拍が強くなる」とありますが、次のア～エのうち「表拍」の部分が**太字**になっているものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア ドッ**タ**ン・バッ**タ**ン
イ **ワ**ツセー・**ワ**ツセー
ウ **オ**ーエス・**オ**ーエス
エ **オ**ー**ラ**イ・**オ**ー**ラ**イ

問三 本文中の(あ)にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 息 イ 声 ウ 手 エ 目 オ 胸

問四 本文中の(い)にあてはまる表現として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人に会うときに、傘を差しては失礼だ
イ 少しくらいの日差しは、がまんしよう
ウ この傘を、相手の人に貸してあげたい
エ 自分だけ、涼しい思いをするのは悪い

問五 本文中の（う）（お）（か）にあてはまる言葉を正しく並べたものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	う	積極	お	長期	か	消極
イ	う	合理	お	短期	か	利己
ウ	う	友好	お	短期	か	一般 ^{ばん}
エ	う	本能	お	長期	か	一方

問六 本文中の（え）には次の四字熟語が入ります。その①②③にあてはまる漢字一字を、それぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

「我 ① ② ③」

問七 —線部③「なおさら」とありますが、この言葉の後におぎなうとしたら、どのような内容が入りますか。次の（ ）にあてはまるように答えなさい。

なおさら（ ） だろう。

問八 —線部④「欧米流のものの考え方」とありますが、どのようなことですか。本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問九 次のア～オのうち、本文と内容が合うものには○、そうでないものには×を答えなさい。

ア 田植えの作業は、日本人の歩き方やリズムの取り方にも影響を及ぼしている。

イ 集団に同調したり協調性を重んじる日本人の気質は、稲作によって育まれた。

ウ 田んぼを拓くことができない地域では、日本人の気質はなかなか醸成されなかった。

エ 世界でも稀に見る日本の災害の多さが、日本人の協調性を重んじる気質を作り出した。

オ 日本人の気質には欠点があり、他の国の良いところをいち早く取り入れることが大切だ。

問十 —線部「海を越えて世界に伝えていきたい」とありますが、あなたはどのようなことを世界に伝えていきたいですか。その理由も含めて二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

コレマデウチュウヒコウシトイエバケンコウデトク
ベツナギジュツヤノウリヨクヲモチイロイロナシ
レンニタチムカエルカガタメサレルキビシイクンレ
ンヲノリコエテエラバレタヒトビトデシタ。シカシ
コトシリヨヒヲハラツタイツパンノヒトノウチュウ
リヨコウガジツゲンシマシタ。マドカラアオクテマ
ルイチキユウヲミナガラスウフンデウチュウクウカ
ンニトウチャクスルソウデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 榎の実を拾う。
- (2) 温泉場へ湯治に行く。
- (3) 易者に見てもらう。
- (4) 畑の肥にする。
- (5) 養蚕業を営む。
- (6) ホウフな資源を使う。
- (7) 旅の計画をネる。
- (8) テンラン会を見に行く。
- (9) ジヨウケンのよい話がある。
- (10) クキョウを乗りこえる。

四

次の(1)～(5)の会話の中の話し言葉を、例のように書き言葉を改めなさい。

例 ちよつと質問します。(ちよつと↓少し)

- (1) リンゴとバナナ、どっちが好きですか？
- (2) リンゴじゃないです。
- (3) やっぱりバナナですか？
- (4) はい、バナナがとっても好きです。
- (5) だけど、リンゴもおいしいですよ。

